

仮定法 指導案

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 2コマ＋帯活動／論理・表現Ⅰ・Ⅱ／英語コミュニケーションⅡ（高2・2学期）

単元の目標

仮定法過去と I wish を自分の力で書ける。仮定法過去完了は、文を見て意味が取れる。身近な「もしも」を3文程度で伝え合える。

評価規準 この帯で、この単元をどう見取るか

知識・技能	仮定法過去・I wish の形と意味を理解し、型に沿って書く技能を身に付けている。仮定法過去完了（had＋過去分詞）については、文の意味を理解している。
思考・判断・表現	自分の「もしも」について、仮定法を使って3文程度でまとまりよく書いている。
主体的に学習に取り組む態度	板書の型を確かめながら質問したり、うまく言えないときは型に戻って言い直したりして、自分の「もしも」を伝え、相手の答えにも応じようとしている。

過去完了は「読める」を知識・技能の到達点にします。書けることまで求めると、この帯では評定が形の暗記だけで決まってしまうためです。定期テストでも過去完了は読解・選択で問い、記述では問わない設計にそろえます。

単元計画 全2コマ＋帯活動

時	ねらい	主な学習活動	使う教材
1	距離の感覚と、直説法との線引き（本時）	見取り図の気づき→整理表は過去・過去完了・I wish の3行→確認(1)～(4)→ドリル大問1	見取り図（基礎固め）／定着ドリル（基礎）
2	型で書き、口に出す	ドリル大問2（ ）の語を過去形にするだけなので全員が手を動かせる）→表現ワーク「型で書く」(1)～(3)→「3文つなげて」で段落にする→ペアQ&Aを2問	定着ドリル（基礎）／表現ワーク（基礎）
帯	定着の確認と、次の段への橋	小テスト基礎版。前の時間の終わりに、整理表の過去完了の例文（If I had studied harder, I could have passed the exam.）を訳して確認しておく。よくできたクラスは翌週に標準版でもう一度（同じ場面・支援だけ外す）	10分小テスト（基礎）→（標準）

教材 この指導案で使う紙（どの版を・どこで）

見取り図プリント（基礎固め）	本時。整理表は3行（過去完了は読解用）
定着ドリル（基礎）	本時の大問1、次時の大問2。（ ）内の語を過去形にするだけなので全員が最後まで進める
表現ワーク（基礎）	次時。「型で書く」3文とペアQ&A 2問
10分小テスト（基礎）／同（標準）	帯活動。2回目は同じ場面のまま標準版に上げる

仮定法 指導案 | 本時の展開

本時 1時間目／全2時間 本時の目標：「事実と違う話」と「ありうる話」を、動詞の形で見分けられる。

時間	学習活動（生徒）	指導上の留意点・評価
5分	「もし宝くじが当たったら何をする？」をペアで1つつつ日本語で言う	英語にしない。全体では3人だけ指名して共有する。言いたいことがある状態を作ってから文法に入る（この5分を削らない）
10分	見取り図の「気づき」—AとBで動詞の形がどう違うかをペアで見つける	答えを言わない。「Bの時間はいつの話？」だけ問い返す
10分	整理表の3行を、板書と同時に自分の紙に埋める	過去完了の行は「読めればよい」と明言する。ここで負荷を上げると後半が動かない
10分	確認問題(1)～(4)を個人で→ペアで答え合わせ	(2)は直説法。ここを間違えた生徒が多ければ全体で扱う【知識・技能】
10分	定着ドリル（基礎）大問1に進む。終わった生徒は大問2へ	早く終わる生徒の仕事を先に告げておく（手が空く時間を作らない）
5分	「過去形＝距離」を1行でノートにまとめる	次時に書く活動があることを予告する

板書計画 左から順に残す

1. （左）比べる2文： If it rains tomorrow, I will stay home. / If I were a bird, I would fly to school.
2. （中）整理表の3行（仮定法過去／仮定法過去完了＝読めればよい／I wish）
3. （右）今日の1行「過去形は、昔ではなく現実からの距離」

つまづき この帯で必ず出るものと、その場の手立て

見取り（こう出る）	手立て（こう返す）
「もし」＝仮定法と機械的に覚え、あしたの話まで would にする	確認(2)に戻す。「起こるかもしれない話か、起こらない話か」を先に日本語で判定させてから英語に入る
過去完了を見ると固まる	「読めればよい」を宣言してあることを思い出させる。訳だけ確認して先へ進める
would の後ろを過去形にする（would went）	助動詞のうしろは原形、という中学の規則に戻す。can/will で言い直させると早い
ペア活動で英語が出ず日本語になる	答えの型を板書に出したままにする。型を読むだけでも「言えた」と扱う

この帯の勘どころ この帯の分かれ目は「ありうる話／ありえない話」の判定です。形の練習より先に、日本語で判定させる時間を取ると誤りが激減します。大問2の英文は中学既習の語彙だけで書いてあるので、英検準2級の二次対策の音読練習にもそのまま使えます。

